

地域リーダーの育成を目指して

—第2期
ほうきまちづくり塾開催！—



▲第2回山西 駿氏の講演会の様子

協働のまちづくりを担う地域リーダーの育成を目指して、昨年に引き続き「第2期 ほうきまちづくり塾」の第1回の会合が7月26日夜、町立溝口公民館で開催され、塾生の紹介やオリエンテーションが行われました。

この塾は、自薦や各集落からの推薦などによる伯耆町内の住民14名で構成され、講演やグループワークを通じて、塾生がまちづくりについて考え、語り合う機会をつくり、地域リーダーを育成しようと開催されました。

オリエンテーションではほうきまちづくり塾のルールや伯耆町の行財政の概要説明・協働のまちづくりについての説明があり、その後、第1回の会合ということで、塾への参加動機やまちづくりへの意気込みを交えて参加者が自己紹介を行い、まちづくり塾リーダー、副リーダーの選出を行いました。

8月23日には、第2回として、「地域活性化とリーダーの役割」と題し、前鳥取西部農業協同組合 代表理事組合長 山西 駿氏による講演があり、その後「地域リーダーにとって大切なこと」をテーマにグループワークを行い、2班に分かれて地域リーダーについて活発な討議がなされました。

続いて、9月6日には第3回目が開催され、「集落活性化への課題や問題点の抽出とその対応」をテーマにグループワークによる討議を行い、集落活性化への対応策がまとめられ、各班ごとに発表がされました。

今後、塾生による「協働のまちづくり自主企画事業」の実施など、12月までに全8回の開催を予定しています。



▲第3回グループワーク発表の様子

○協働とは

住民、NPO、企業、行政などの多様な主体が自治に関わる地域の目標を共有し、それぞれの役割分担を明確にし、対等な立場で相互協力をしながら、それぞれの特性を最大限発揮し、その実現のために共に汗をかき、改善や評価を行っていくことです。

○今、なぜ、協働が必要か

社会が急速に変化する中で多様化、複雑化する住民ニーズや地域課題に対して、町の行政サービスだけで対応することは困難になってきています。そこで住民、ボランティア団体、NPOとの協働により、住民が求めるニーズにあったサービスを提供し、地域の課題を解決を目指していこうという考え方です。

【問合せ先】自治振興課町づくり推進室 ☎68-3113



まちのわだい

日々好日



間近で見る競走馬の姿に感動

8月25日、競走馬のトレーニング施設「大山ヒルズ」（真野）の見学会が行われました。

この日、30名が参加し、競走馬が実際にトレーニングしている姿や厩舎の様子を見学しました。



▲間近でみる競走馬に感動。

生活の様子を見学しました。大山ヒルズは、中央競馬で出走する競走馬のトレーニングなどを目的に2003年3月にオープンした施設で、現在、130頭の競走馬が管理され、中央競馬で活躍するためトレーニングしています。はじめに、円形の馬場などで実際に競走馬がトレーニングしている姿を見学しました。参加者は、職員の説明を聞きながら競走馬の走る姿に見入っていました。また、大山ヒルズ期待の競走馬4頭の紹介がされると、コースで見学したときよりも大きく迫力のある競走馬の姿に、とても感動されていました。

夕暮れの涼やかな風とともに 流れる吹奏楽の調べ

9月1日、植田正治写真美術館野外ステージで第5回たそがれコンサートが開催されました。この日は、岸本小学校金管バンドのほか、岸本中学校吹奏楽部と溝口中学校吹奏楽部、伯耆町吹奏楽団が合同で演奏しました。



▲岸本小学校金管バンドの演奏の様子。

の風になって「など最近の曲も演奏され、コンサートに集まった約200人の聴衆は心地よさそうに生の演奏に聞き入っていました。また、コンサートが終わると美術館が無料開放され、来館者は写真鑑賞を楽しみました。



▲子ども達の演奏に聞き入る聴衆。

大山のおいしい水を 全国に発信

コカ・コーラウエスト大山プロジェクト（金屋谷）が約30億円を投資して、敷地内の工場に新たに製造ラインを導入。9月7日、関係者が出席して現地での起動式が行われました。旧製造ラインでは、2リットルペットボトルのみの生産でしたが、新製造ラインは500ミリリットルも生産可能となり、生産能力は旧製造ラインの約2倍になりました。大山の麓、伯耆町のおいしい水が全国に発信されます。



▲新型製造ラインを流れるミネラルウォーターとテープカットして祝う関係者。